

令和元(平成31)年度 事務事業評価シート(平成30年度実績)

事務事業名	下妻公民館維持管理事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	1	生涯学習、公民館

1. 事業の概要(Plan)

目的	施設の適切な維持管理により、利用者に安心安全で快適な利用を提供する。				
内容	施設の維持管理、補修等の業務				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名		説明			年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
	利用者団体		公民館の利用団体数			目標	3,000	3,000	1,900	団体	
						実績	2,736	2,232			
成果指標	指標名		説明			年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
	利用者数		公民館の利用者数			目標	40,000	40,000	26,100	人	
						実績	34,043	31,251			
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 公民館費			
事業費(千円)	H29決算額		H30予算額		R1予定額		R2予定額		R3予定額		
総事業費	13,317		12,507		11,980		0		0		
事業経費	8,117		7,307		6,780		0		0		
特定財源	0		0		0		0		0		
従事職員等数	0.80		0.80		0.80						
概算人件費	5,200		5,200		5,200		0		0		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	必要性は高いが、今後の方針が0ベースでの再検討中である。
		対象の適切性	適切	対象は施設利用者になるため適正である。
		主体の妥当性	市が推進すべき	公民館の構造・利用者を熟知している市職員が行うべきである。
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	想定通りのサービスを提供できた。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	先の利用が不透明であったため、最小限の修繕にとどめた。
総合評価	費用対効果		効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた。
	手段の妥当性		見直しが必要	今後の方針を0ベースでの再検討中である。
	事業の方針		継続	今後の方針を0ベースでの再検討中である。

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	下妻公民館等の在り方について、今後、再検討されることとなっており、今後の方針が不明である。
今後の取組み	文化事業推進のため継続して利用していきたい。

令和元(平成31)年度 事務事業評価シート(平成30年度実績)

事務事業名	公民館まつり事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	1	生涯学習、公民館

1. 事業の概要(Plan)

目的	公民館や地区館の教室及びクラブの受講生が、活動学習の成果発表を通じて、受講生や地域住民の交流を深める。				
内容	各種教室の発表の場として、ステージ発表や作品展示及び体験教室を行う。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位		
	広報活動	ポスター・お知らせ版・防災無線等により広報した回数	目標	4	4	4	回		
			実績	4	4				
成果指標	指標名	説明	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位		
	教室等の参加人数	発表・展示の参加人数	目標	450	800	1,200	人		
			実績	708	1,163				
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 公民館費	
事業費(千円)	H29決算額		H30予算額		R1予定額		R2予定額		R3予定額
総事業費	371		371		371		371		371
事業経費	111		111		111		111		111
特定財源	0		0		0		0		0
従事職員等数	0.04		0.04		0.04		0.04		0.04
概算人件費	260		260		260		260		260

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	市民のニーズに適した事業である。
		対象の適切性	適切	受講者が対象になるため対象は適切である。
		主体の妥当性	市が推進すべき	教室受講生等との信頼関係が必要なため、市が主体になるべきである。
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	予想通りの結果になり、事業は有効である。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	最低の経費で行っているため、削減の余地はない。
総合評価	費用対効果		効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた。
	手段の妥当性		妥当	受講者との信頼関係が必要なため、職員が企画するのが妥当である。
	事業の方針		継続	現状維持

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	公民館教室・クラブ等のステージ発表参加団体が増えてきており、千代川公民館では、ステージ発表参加者の練習場所や控室の確保が難しくなっている。
今後の取組み	全体の作品展示等の配置見直しや千代川庁舎等の他の施設の利用も検討する。

令和元(平成31)年度 事務事業評価シート(平成30年度実績)

事務事業名	公民館教室事業									
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	1	生涯学習、公民館	

1. 事業の概要(Plan)

目的	市民のニーズに対応した多彩な講座を開催することで、市民同士が交流を深めるよう活動を支援する。				
内容	心豊かに生きるためのきっかけづくりとして市民が幅広く参加できるよう各種講座を開催する。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名		説明				年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
	教室開設数	公民館及び地区館で開設した教室数	目標			36	37	34	講座		
			実績			36	37				
成果指標	指標名		説明				年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
	教室受講者数	公民館及び地区館の教室受講者数	目標			1,000	1,000	800	人		
			実績			832	654				
予算科目	区分	一般会計	款	10教育費	項	5社会教育費	目	2公民館費			
事業費(千円)	H29決算額		H30決算額		R1予算額		R2予定額		R3予定額		
総事業費	11,164		10,873		10,873		10,873		14,505		
事業経費	4,209		4,048		4,048		4,048		7,680		
特定財源	0		0		0		0		0		
従事職員等数	1.07		1.05		1.05		1.05		1.05		
概算人件費	6,955		6,825		6,825		6,825		6,825		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	教室を行うことで、市民に生涯学習の場を提供する
		対象の適切性	適切	市民のニーズに対応した講座を開催している
		主体の妥当性	市が推進すべき	公民館を管理している市が推進すべきである
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	市民のニーズに対応した講座を行っており、講座数も適当である
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	低コストで教室を行っているため、効率性は高い
総合評価	費用対効果		効果あり	最小の経費で目標を達成している
	手段の妥当性		妥当	公民館を管理している市職員が行うのが妥当である
	事業の方針		継続	教室の見直しをしながら継続していく

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	受講者ニーズを取り入れた講座を開講したが、幅広い世代や男性の参加が少ない。
今後の取組み	高齢者の受講者が多い状況なので、幅広い世代や男性の参加が期待できる講座を増やし、教室運営の充実を図る。

令和元(平成31)年度 事務事業評価シート(平成30年度実績)

事務事業名	千代川公民館維持管理事業									
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	1	生涯学習、公民館	

1. 事業の概要(Plan)

目的	施設の適切な維持管理により、利用者に安心安全で快適な利用を提供する。				
内容	施設の維持管理、補修等の業務				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名		説明				年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
	利用者団体		公民館の利用団体数				目標	1,400	1,600	1,600	団体		
							実績	1,523	1,596				
成果指標	指標名		説明				年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
	利用者数		公民館の利用者数				目標	34,000	34,000	34,000	人		
							実績	34,782	33,315				
予算科目		区分	一般会計		款	10 教育費		項	5 社会教育費		目	2 公民館費	
事業費(千円)		H29決算額		H30予算額		R1予定額		R2予定額		R3予定額			
総事業費		18,079		20,536		20,490		20,490		20,490			
事業経費		12,879		10,786		10,740		10,740		10,740			
特定財源		0		0		0		0		0			
従事職員等数		0.80		1.50		1.50		1.50		1.50			
概算人件費		5,200		9,750		9,750		9,750		9,750			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	ホールや貸館する部屋が多いため、必要性は高い。
		対象の適切性	適切	対象は施設利用者になるため適切である。
		主体の妥当性	市が推進すべき	公民館の構造・利用者を熟知している市職員が行うべきである。
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	想定通りのサービスを提供できた。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	低コストで維持管理したため、削減の余地はない。
総合評価	費用対効果	効果あり		最小の経費で指標の目標に近づけた。
	手段の妥当性	妥当		市職員が管理し、必要な部分だけ今まで通り委託する。
	事業の方針	継続		現状維持で行うべきである。

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	公共施設マネジメントによる大規模改修を先送りしているため、修繕のみの維持管理となっている。
今後の取組み	修繕個所の優先順位をつけて、利用者が施設を快適に利用できるように維持管理していく。

令和元(平成31)年度 事務事業評価シート(平成30年度実績)

事務事業名	大宝公民館維持管理事業									
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	1	生涯学習、公民館	

1. 事業の概要(Plan)

目的	施設の適正な維持管理により、利用者に安心安全で快適な利用を提供する。				
内容	施設の維持管理、補修等の業務				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名		説明				年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
	利用者団体		公民館の利用団体数				目標	1,500	1,500	1,500	団体
							実績	1,349	1,223		
成果指標	指標名		説明				年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
	利用者数		公民館の利用者数				目標	21,000	21,000	21,000	人
							実績	21,282	17,507		
予算科目	区分	一般会計	款	10教育費	項	5社会教育費	目	2公民館費			
事業費(千円)	H29決算額		H30決算額		R1予算額		R2予定額		R3予定額		
総事業費	11,615		9,759		9,770		9,770		9,770		
事業経費	6,415		5,859		5,870		5,870		5,870		
特定財源	0		0		0		0		0		
従事職員等数	0.80		0.60		0.60		0.60		0.60		
概算人件費	5,200		3,900		3,900		3,900		3,900		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	貸館の利用率が高いため、必要性は高い
		対象の適切性	適切	対象は施設利用者になるため適切である
		主体の妥当性	市が推進すべき	公民館の構造・利用者を熟知している市職員が行うべきである
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	予定通りの管理運営ができた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	低コストで維持管理したため、削減の余地はない
総合評価	費用対効果		効果あり	最小の経費で指標の目標に近づいた
	手段の妥当性		妥当	市職員が管理し、必要な部分だけ今まで通り委託する
	事業の方針		継続	現状維持で行うべきである

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	公共施設マネジメントによる大規模改修を先送りしているため、修繕のみの維持管理となっている。
今後の取組み	修繕個所の優先順位をつけて、利用者が施設を快適に利用できるように維持管理していく。

令和元(平成31)年度 事務事業評価シート(平成30年度実績)

事務事業名	市民センター管理事業									
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	1	生涯学習、公民館	

1. 事業の概要(Plan)

目的	施設の適正な維持管理により、利用者に安心安全で快適な利用を提供する。				
内容	施設の維持管理、補修等の業務				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名		説明			年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
	利用者団体		公民館の利用団体数			目標	1,400	1,500	1,500	団体	
						実績	1,582	1,223			
成果指標	指標名		説明			年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
	利用者数		公民館の利用者数			目標	21,000	24,000	20,000	人	
						実績	20,916	18,925			
予算科目		区分	一般会計	款	10教育費	項	5社会教育費	目	2公民館費		
事業費(千円)		H29決算額		H30決算額		R1予算額		R2予定額		R3予定額	
総事業費		13,877		11,835		12,230		12,230		12,230	
事業経費		8,677		7,285		7,680		7,680		7,680	
特定財源		0		0		0		0		0	
従事職員等数		0.80		0.70		0.70		0.70		0.70	
概算人件費		5,200		4,550		4,550		4,550		4,550	

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	市民の集会施設・学習施設として利用度は高い
		対象の適切性	適切	対象は施設利用者になるため適切である
		主体の妥当性	市が推進すべき	市民センターの構造・利用者を熟知している市職員が行うべきである
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	想定通りのサービスを提供できた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	低コストで維持管理したため、削減の余地はない
総合評価	費用対効果		効果あり	最小の経費で指標の目標に近づけた
	手段の妥当性		妥当	市職員が管理し、必要な部分だけ今まで通り委託する
	事業の方針		継続	現状維持で行うべきである

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	公共施設マネジメントによる大規模改修を先送りしているため、修繕のみの維持管理となっている。
今後の取組み	4市民センターとも、竣工から30年以上経過し、全体的に老朽化が進んでいるため、利用者が施設を快適に利用できるように、計画的な修繕工事をしていく。